

平成30年度

学校関係者評価報告書

平成31年3月20日

那覇市医師会那覇看護専門学校

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準8 財 務	12
2 本年度の重点目標と達成計画	2	基準9 法令等の遵守	13
3 評価項目別取組状況	4	基準10 社会貢献・地域貢献	14
基準1 教育理念・目的・育成人材像	5	4 平成30年度重点目標達成についての自己評価	15
基準2 学校運営	6		
基準3 教育活動	7		
基準4 学修成果	8		
基準5 学生支援	9		
基準6 教育環境	10		
基準7 学生の募集と受入れ	11		

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p data-bbox="573 411 680 435" style="text-align: center;">教育理念</p> <p data-bbox="152 448 1077 544">本校は、看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養を育て、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる看護実践者を育成する。 その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。</p> <p data-bbox="562 655 669 679" style="text-align: center;">教育目的</p> <p data-bbox="152 692 1077 751">本校は、看護実践者として人間力、判断力、実践力を身につけ、地域医療に貢献できる人材の育成をする。</p> <ol data-bbox="152 794 913 994" style="list-style-type: none">1 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的行動がとれる。2 他者との関係を築くことができる。3 看護者に必要な知識・技術・態度を身につけることができる。4 自律心・探究心を持ち、創造性を発揮できる。5 地域社会に関心を持ち、保健・医療・福祉を考えることができる。6 看護学を学び、自分の健康生活と人生の充実を考えることができる。	<p data-bbox="1543 448 1650 472" style="text-align: center;">教育目標</p> <ol data-bbox="1111 485 2089 1098" style="list-style-type: none">1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を培う。2 人間の健康と生活を、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する基礎的能力を培う。3 一人ひとりの多様な価値観を認め、看護実践者として、対象の意思決定・自己実現を支援できる基礎的能力を培う。4 看護者としての責任と義務を担い、職業倫理に基づいた行動決定をするための基礎的能力を培う。5 看護実践者として、自律・探究・創造する能力を育み、将来にわたり、自己の成長と人生の充実を考えることのできる能力を培う。6 看護の知識・技術・態度を活用し、人々の健康課題を明らかにし、看護の対象に対して科学的根拠に基づいて安全に看護実践できる基礎的能力を培う。7 あらゆる発達段階、健康段階及び障がいの状態に応じた看護を安全に実践するための基礎的能力を培う。8 保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、協働するとともに、人々が社会資源を活用できるよう調整するための基礎的能力を培う。9 国内外の動向に関心を持ち、社会の変化及び状況に応じた看護の役割を認識できる基礎的能力を培う。

2 本年度の重点目標と達成計画

平成30年度重点目標	達成計画・取組方法
1, 安定した学校運営 2, 教育課程の円滑な運営 3, 教職員の資質の向上 4, 教育環境の整備 5, 学生支援の強化 6, 入学生・卒業生への支援 7, 広報活動 8, 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 9, 後援会及び同窓会活動の支援	(1)安定した学校運営 ①教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定を図る。 ②均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努める。 ③年度末に学校運営全般の自己点検自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにする。 ④学校の将来を考える会を開催し、応募状況、受験生の要望、高校生へのアンケート調査、卒業生キャリアアンケート(追跡調査)評価、設置主体のニーズ等を踏まえ学校の在り方を検討する。 (2)教育課程の円滑な運営 ①外来講師、専任教員、臨地実習施設の確保に努める。 ②看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的能力の育成に努める。 ③実習指導者との情報交換、連携・協働を推進する。 ④地域包括ケアへの移行を見据え、新カリキュラム構築に向け現行カリキュラムの評価を行う。 (3)教職員の資質の向上 ①県内外の研修会・学会へ派遣する。 ②実習施設と教育現場との連携、協働について強化していく。(院内研究発表会への積極的参加) ③看護教員養成講習会未受講者の研修派遣をする。 ④看護研修への取り組みを支援し、県内外の学会発表を推奨する。 ⑤キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を実施する。 (4)教育環境の整備 ①図書の実用、図書室の利用率を高め、学生の学習活動を支援する。 ②教材備品の管理を徹底し、教材教具を積極的に活用し、学生の主体的な学習活動を支援する。 ③建物等の自主点検を定期的に行い破損防止、事故防止の強化を図り、保全管理に努める。 ④駐車場の整備、花壇やロビーの美化に努め、学生の情緒教育を促進する。 ⑤社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援する。

平成30年度重点目標	達成計画・取組方法
	<p>(5)学生支援の強化</p> <p>①看護師としての基礎的能力の習得、学習活動、経済的支援に努める。</p> <p>②社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援する。</p> <p>③国試対策として3年間の支援計画の下、国家試験合格100%をめざす。</p> <p>④専門性の追求や学び続ける力を支援するために教科外講座の開設をする。(福祉住環境コーディネーター)</p> <p>(6)入学生・卒業生への支援</p> <p>①入学前支援としてのプレスクールの実施。</p> <p>②卒業後支援としての里帰りの実施(卒後5か月目、卒後1年目)</p> <p>(7)広報活動</p> <p>①日頃の学校生活を学校ホームページにて紹介し充実を図る。</p> <p>②学校説明会・学校祭・オープンキャンパスを開催し、学生生活を紹介する。</p> <p>③高等学校を訪問し、職業ガイダンス、進学説明会を行い、質の高い入学生の確保に努める。</p> <p>④中学校を訪問し、職業ガイダンスにより、看護師の魅力を伝える。</p> <p>(8)周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>①中高生への健康教育、健康講座等へ積極的に講師を派遣し地域貢献に努める。</p> <p>②学生のボランティア活動を支援し積極的に地域活動へ参加する。</p> <p>③日本看護学校協議会、沖縄県看護教育協議会との情報交換を進め、他の関連機関との連携に努める。</p> <p>(9)後援会及び同窓会活動の支援</p> <p>①後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう、事務的支援を行う。</p>

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・目的・目標は、看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性を持った看護実践者を育成するという哲学的な概念を含む理念を掲げ、専門職の特性を明文化している。</p> <p>理念を実現するための、教育目的・目標を明示し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野の領域ごとの目的・目標を掲げ教育計画を立案・明確化している。理念を学生・保護者、関連施設等へ浸透させるために、理念を理解しやすいようロゴマークを作成し、周知の工夫を行っている。今後も後援会や学校便り等にて保護者への周知を図る工夫を行っている。</p> <p>学生が主体的に学べるよう、協同学習技法を取り入れ、アクティブラーニングを教育活動として展開している。</p> <p>教育理念に基づき、社会のニーズに即応した看護専門職業人『看護実践者』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。年度初めに重点目標・事業計画を提示し周知している。前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。</p>		<p>ロゴマークの作成 理念の周知を図る工夫を行っている</p> <p>4回シリーズのプレスクール 推薦入学で合格した入学予定者へ入学前授業として、12月～3月までの期間に4回シリーズのプレスクールを実施している。</p> <p>TAとの連携による技術教育 在学中は、実習施設と連携協力の下、ティーチングアシスタント(TA)と共に技術教育を行っている。</p> <p>目標管理シートの活用 学生は『目標管理』シート(プロジェクト学習の改訂版)を活用して学習活動等に取り組むことができている。また、学年を超えた交流や学びの共有を機会あるごとに行うことができている。</p> <p>シミュレーション学習、協同学習 教育活動の工夫として、シナリオベースのシミュレーション学習、協同学習等、学生が主体的に学べるようアクティブラーニングを活用した授業方法を展開している。</p> <p>里帰りラーニング 卒業生に対しては、卒業後5か月目、卒業後1年目に里帰りラーニングを実施し、卒業後の精神的ケアや、臨床実践能力の支援を行っている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
<p>社会のニーズを捉えた将来構想について、学校の存在価値をどう取り込んでいくのか。外国人との関わりもどのように考えていくのか、どのような在り方を学校として考えるか、地域の人々の力を活用していくことも検討していくことが必要ではないか。より具体的なレベルで行動につなげていくことも必要ではないだろうか。</p>		

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念に基づき、社会のニーズに即応した看護専門職業人『看護実践者』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を提示し、前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。『魅力ある選ばれる学校』となるよう、積極的に情報発信し、透明性・客観性を確保し学校の質保障・向上を図っていく。</p> <p>本校は、教職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。規則・規程等の改正が必要であれば 管理者会議を経て学校運営委員会等で審議し改正していく。教職員の研修計画を取り入れ、自己研鑽の機会とし資質向上を図っている。また、人材確保については、ホームページやナースセンター及びハローワーク等で採用広報を行っている。人事考課制度については、法人が行う規定の見直しや『働き方改革』等を見据え検討することが必要である。</p> <p>学生の主体的な学習活動を支援、業務の効率化を図るためにも、教務事務の役割を明確化し、学生の情報管理システムを構築、タイムリーな情報提供を行い、トラブル発生が無いよう、今後も適切にセキュリティ管理を行なっていく。</p>	<p>人事考課制度については、法人が行う規定の見直しや『働き方改革』等についても検討していく。</p>	<p>学務システムによる効率的な運用</p> <p>学務システムを取り入れ教務事務による効率的な運用ができています。</p> <p>情報管理システムを構築し、学生へもタイムリーな情報提供(出欠席管理)ができるよう環境整備している。</p> <p>情報管理システムとセキュリティー管理</p> <p>学生の情報管理システムを構築、タイムリーな情報提供を行い、トラブル発生が無いよう、適切にセキュリティー管理を行なっている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
<p>意見・提言は特になく妥当であると思われる。</p>		

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>厚生労働省の保健師助産師看護師等養成学校指定規則を遵守し、教育理念、教育目的、教育目標を反映した内容で教育課程編成を行っている。</p> <p>学科目の目標、単位数・時間数は適切であり、学生便覧、みちしるべ(学習シラバス)にも明示している。</p> <p>授業形態や授業方法も明示しており、学習シラバスは、毎年教育内容や方法を検討し、評価修正している。しかし、領域を超えての授業参観の機会が少なく、他の領域の教員からの意見が反映されにくい。</p> <p>在校生や卒業生の授業評価や、満足度評価等行い、学校運営の改善に反映させている。</p> <p>校内実習に参加したティーチングアシスタント(TA)やユニフィケーション会議等での意見も講義・演習・臨地実習に反映させている。</p> <p>キャリア教育については、3年後の目標まで明文化させ、実習ごと、学期ごと振り返り目標管理を取り組ませている。毎年、看護職として必要な基礎的態度の自己評価として学生のレーダーチャートを作成し、成長や課題を視覚化し、チューターと共に振り返りを行っている。また、在学中の経験記録をポートフォリオとして整理し、キャリアデザインの講話やストレスマネジメントの講演を行っている。</p> <p>ユニフィケーション会議に参加していない就職先からの評価が実施されていないため、今後評価計画を立案し実施できるよう努めていく。</p>	<p>授業参観計画を立案し授業方法研鑽の機会としていく</p> <p>ユニフィケーション会議に参加していない就職先の意見聴取や評価計画を立案する</p>	<p>看護職として必要な基礎的態度の自己評価 「看護職として必要な基礎的態度」の自己評価し、学生のレーダーチャートを作成、成長や課題を視覚化し、チューターと共に振り返りを行っている。在学中の経験記録をポートフォリオとして作成している。 キャリアデザインの講話やストレスマネジメントの講演を行っている</p> <p>ユニフィケーション会議の開催 校内実習に参加したティーチングアシスタント(TA)やユニフィケーション会議等での意見も講義・演習・臨地実習に反映させている。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>教育課程に外部の意見をどう取り込んでいくか、多職種の見解を看護基礎教育の中に取り込んでいく方法を検討していくことも必要だろう。</p>		

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率100%を目標としており、学生の就職については、就職担当の事務職員が窓口となり、情報提供や相談などの支援を行っている。また、就職説明会やセミナーを毎年1回3年生、2年生に行っている。卒業時の内定状況も把握し教員と情報共有している。</p> <p>卒業後の追跡調査を毎年行っている。卒業生が就職先から派遣されてきた場合、在校生との交流会を持ち、直接情報を提供している。また、里帰りレーニング終了後に、3年生は先輩と交流を持ち、積極的に情報を交換している。</p> <p>1年生については、就職活動の基本的なことについて専門業者の講話で動機づけに繋げている。</p> <p>2年生については、公的な場で行われている就職セミナーに参加した本校の学生の状況を業者から情報提供してもらい把握している。</p> <p>後援会、同窓会からも模試代金の支援を受けている。</p> <p>国家試験合格100%を目標とし、1学年から3学年まで国家試験対策の年間計画を立て、教職員全員で取り組んでいる。学校案内、ホームページ等にも載せて受験生に周知している。合格実績、合格率も毎年全国水準を上回っている。国家試験終了後は結果を分析し、支援方法を検討し次年度に繋げている。</p> <p>卒業生の就職状況について、県内の就職先は情報収集は容易であるが、県外の就職状況については、直接訪問の機会を設定し状況把握を行っている。また、実習病院の院内の研究発表については、看護部を通して情報提供を受けており、発表会にも参加している。</p>		<p>就職セミナー(県内の病院を対象) 毎年1回開催</p> <p>里帰りレーニング終了後 3年生と卒業生の交流会 卒業生との交流会を設定し3年生は希望する就職先等の情報収集等を行う機会となっている</p>
学校関係者評価委員の意見		
<p>卒業生の社会的評価をどのような目的で、何のために、どのような方法で、どこまで追跡するかなど目的を明確にさせることが必要だろう。学生の時から、どのように自己研鑽していくか、どのように各自が学ぼうとしているか意識化させていくことも必要だろう。キャリア教育時の連携が必要。</p>		

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生への就職等に関しては、各教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況は学内で共有している。学生の学業継続の相談に関しては、担当教員や教務部長が面談、必要時、学校長、保護者も交えて面談を実施している。また、心理カウンセラーの活用の促がしや、必要時、相談医を紹介している。平成 30 年度退学者は0名であった。</p> <p>学生の経済面に対する支援として、困窮している学生には各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。大規模災害時及び家計急変時等に対する支援制度は整備している。</p> <p>学生の健康管理では、年 1 回の学校健診を行い 2 次検診が必要な学生には随時指導を行っている。健康面で問題がある場合には、担当教員との連携を行って支援している。課外活動の支援は、サークル担当窓口の教員を配置し予算やサークル活動についての相談を行っている。</p> <p>保護者に対して、入学式後に学校説明会を開催し、本校の教育理念・目的・目標及び教育課程内容の説明を行っている。また、後援会役員会及び総会を通して学校の教育活動状況や学校の支援体制について説明し周知を図っている。</p> <p>卒業生の支援として、同窓会が結成されており計画的に総会や特別講演を開催している。卒後5ヶ月と1年目に「里帰りレレーニング」を開催している。社会人経験者の入学に際し、入学前の履修科目に対して、学則に従って単位認定をしている。</p>		<p>学生の就職等進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学の情報提供や個別相談を行っている。 ・県外就職の卒業生に対し、就職先訪問を実施。 ・就職試験や履歴書・小論文の書き方、面接時マナー等の支援を行っている。 <p>学生相談の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュートリアル担当教員が入学から卒業まで、継続的に相談窓口として学生を支援している。 ・学生が相談しやすいように男性・女性のカウンセラーを配置している。 <p>学生生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的支援制度の情報提供を十分行っている。 日本学生支援機構・沖縄県看護師等奨学資金 教育訓練給付制度・専修学校奨学金給付事業他 ・学生の健康管理に関して、「わたしの健康ノート」を活用し、学校健診、抗体価検査、ワクチン接種状況が管理できるよう指導している。 <p>卒業生・社会人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒後は、5ヶ月と1年目に「里帰りレレーニング」を開催している。卒業後の研究活動の支援として図書館を開放し、個別での相談も行っている
学校関係者委員の意見		
<p>評価項目の『学生寮の設置』があるが、学校としてあり方を検討し表現していくことが必要だろう。</p>		

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設設備に関しては、法定点検や日常点検を定期的に行い必要に応じて部品の取替や修繕を行っている。教育用具等も看護師養成所の運営ガイドラインに基づいて必要な数量を十分に揃えている。</p> <p>学外実習に関して、臨地実習について実習要項を作成し適切に運用している。実習施設と協議会を開催し、連携を密にしている。また年度末にはユニフィケーション会議を開催し協同学習や現場と意見交換を行っている。臨地実習の教育効果について、目標評価スケールステップアップスケールの活用で基礎的能力・成長過程の評価を確認している。</p> <p>入学式・宣誓式・卒業式やオープンキャンパス・学校祭等に学生は積極的に参画している。また、卒業生・保護者・関連業界等、学生の就職先等に行事の案内をしている。</p> <p>学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備している。施設・建物・設備の耐震化を確認している。</p> <p>消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応し、記録を保存している。</p> <p>備品の転倒防止など安全管理している。防災・安全管理に関する組織体制は整備され適切運営されている。</p>		<p>セルフスタディールームの設置 基礎看護実習室の他にセルフスタディールームを設けており、個人またはグループで、いつでも自由に看護技術を高め合うことができる。</p> <p>模擬負傷者役を通して防災意識、安全教育 災害看護の演習の一環として、那覇空港航空機事故防災訓練及び那覇市防災訓練へ学生は模擬負傷者役で参加している。</p> <p>ステップアップスケールを用いた基礎的能力の評価 臨地実習の教育効果については、各領域の目標評価スケール及びステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価・成長過程の評価を確認している</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言は特になく妥当であると思われる		

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集に関して、高校生へ進学説明会を積極的に行い、看護師教育についての情報提供を行っている。年に1回、高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。入学希望者・保護者・高校の教員等へ学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。</p> <p>県内看護師養成学校及び県内看護大学等の入試計画を参考に、受験生にとって不利益にならないよう日程を考慮している。募集要項等については、県内高等学校進路室へ配布している。ホームページにて、入試情報を提示している。オープンキャンパスや学校祭においても来校者へ入試情報を説明している。</p> <p>また、独自で高校二年生を対象に「進路に関するアンケート調査」を行い、将来の進路について日頃どのようなことを考え、どのように決めているかを明らかにし、看護教育の質を高め、看護実践者を育成する看護教育の在り方を検討していく基礎資料としている。</p> <p>独自に行った高校二年生を対象とした「進路に関するアンケート調査」の結果、進路を考えた時期が中学生の頃との回答が35%で最も高かったため、今後は中学校へも訪問し「職業ガイダンス」を積極的に行っていく。</p> <p>今後も受験生のニーズに応えられるよう動向調査を行いガイダンスに繋げる。</p>		<p>高等学校進路担当の教員へ学校説明会の開催 高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。 入学希望者・保護者・高校の教員等一般向けの学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。 オープンキャンパスや学校祭においては学生によるフリートークのブースを設け受験生の個別相談に対応している。</p> <p>職業ガイダンスの実施 今年度は、中学校1校に2回訪問し、述べ 94 名の生徒に職業ガイダンスを実施した。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言は特になく妥当であると思われる		

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>収入においては、受験者数は目標達成でき、予算どおりの収入を確保することができた。</p> <p>安定した財務状況である。中長期的に学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査を受けている。業務は法令等に従い適正に実施されている。また、事業報告書は法令に従い、本校の状況を正しく示しているが、比率での予算把握については、比率表示が入っていないため、検討していく必要がある。</p> <p>公認会計士による定期監査を実施し指導を受けている。財務情報公開体制の環境も整い情報公開している。</p>	<p>財務諸表では比率表示は入っておらず、引き続き検討事項とする</p>	
学校関係者委員の意見		
<p>意見・提言は特になく妥当であると思われる</p>		

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき学校を運営し届け出ている。運営に必要な規則・規定等は、整備し適切に運用している。</p> <p>ハラスメント防止等に関する規定を作成し、H30年10月1日から施行している。また、従来、男性心理カウンセラーのみの起用であったが、女性心理カウンセラーの新規起用を行った。</p> <p>個人情報保護に関することや学務システムおよびサイトに関しても、適切に運用している。</p> <p>学生へもSNSと個人情報管理について特別講義を行っている。また、臨地実習前オリエンテーションでも周知している。SNSについての事案として、学生間における実習先の出来事として、無料通話アプリで事実と異なる内容を記載し写真を送信した。この件に関しては学年全体でSNSの使い方・個人情報保護について考える場を設けた。個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用している。学生へは、SNSと個人情報管理について特別講義を行っているが、SNSの取り扱いやマナーの周知が不十分な面がみられる。</p> <p>教職員が学生に対しての個人情報を法令に基づいて遵守することに関しては、個人情報の誓約書を書いている。</p> <p>学校関係者評価結果は報告書にとりまとめ、学校関係者評価委員会の意見も合わせてホームページに掲載している。</p>	<p>SNSと個人情報管理については引き続き特別講義や臨地実習前オリエンテーションにて周知をしていくが、その操作を行うスマートフォンなどのタブレット端末の学内・実習先での使い方やマナーを見える化し教職員で共通理解し、学生へ周知して行く。</p>	
<p>学校関係者委員の意見</p>		
<p>継続教育においても、倫理教育は大事であり、強化していく必要性はある。対象者の尊厳を守ることは知っているが、「SNS」等に個人情報につながる情報をアップさせている場合が見受けられるため。言葉(文字)が武器になることを自覚していくこと。</p>		

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、講師のキャリアアップのために認定書を交付している。ティーチングアシスタント(TA)と里帰りトレーニングを実施している。就職指導に関しては、県内の実習病院を中心に就職説明会を行っている。</p> <p>学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放も積極的に行い、実習病院や各専門学校、医療系大学、沖縄県と広く連携しながら運営ができています。</p> <p>ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し参加している。また、学生のボランティアの活動実績を評価し、卒業時に活動報告会を設け、特別活動として表彰している。</p>		<p>『認定書交付』 学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、ティーチングアシスタントの技術教育に携わった方、講義を行った方へキャリアアップの為の成果として『認定書交付』を行っている。</p> <p>学生会活動(ボランティア活動) 学生会主体のボランティア活動としてペットボトルのキャップを集め、環境問題への関心を啓発する機会としている</p>
学校感謝価委員の意見		
意見・提言は特になく妥当であると思われる		

4 平成30年度重点目標達成についての自己評価

平成30年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1 安定した学校運営</p> <p>2 教育課程の円滑な運営</p> <p>3 教職員の資質の向上</p> <p>4 教育環境の整備</p>	<p>1. 安定した学校運営 教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定化については、均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努めることができた。 年度末に学校運営全般の自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし結果を公表することができた。学校の将来を考える会を開催し、応募状況、受験生の要望、高校生へのアンケート調査、卒業生キャリアアンケート(追跡調査)評価、設置主体のニーズ等を踏まえ学校の在り方を継続的に検討していくことを協議決定した。</p> <p>2. 教育課程の円滑な運営 外来講師及び臨地実習施設の確保は安定的に行えているが、専任教員の確保については、定年後の継続雇用で支障なく運営することができた。 看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的能力の育成については、「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を活用して自己評価を行い、学生自身の自己成長を確認することができた。 実習指導者との情報交換、連携・協働についてはユニフケーション会議やTAとの技術教育における連携・協働の視点で関わることができた。 地域包括ケアへの移行を見据え、新カリキュラム構築に向け現行カリキュラムの評価を継続的に行うことができた。</p> <p>3. 教職員の資質の向上 各自の研修計画を基に県内外の研修会へ 100%参加することができた。県外学会発表は 3 件派遣することができた。また、実習施設と教育現場との連携・協働については、実習施設で行われている院内研究発表会へ参加することができ、教育の資質向上に努めることができた。 看護教員養成講習会へは未受講者 1 名を派遣することができた。 キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を年 2 回(中間・年度末)実施することができた。 ハラスメントに関する知識を学ぶ機会・研修会が未実施である。</p> <p>4. 教育環境の整備 時間外での図書返却用 BOX 設置により時間外使用体制を設け、図書の利用率を高め、学生の学習活動を支援することができた。教材備品の管理を徹底し、情報科学で使用するパソコンを 50 台入替えを行い、学生の主体的な学習活動を支援することができた。</p>	<p>1. 就職先と連携し、卒業生キャリアアンケート(追跡調査)を行い、今後の学校の在り方について検討していく資料として情報収集及び分析を行っていく。</p> <p>2. 次世代の人材育成を見据え中長期的な視点で人材確保をしていく。</p> <p>3. 教職員の資質向上として、ハラスメントに関する基礎知識を学ぶ機会・研修会を計画していく。</p>

平成30年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>5 学生支援の強化</p> <p>6 入学生・卒業生への支援</p> <p>7 広報活動</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援</p>	<p>5. 学生支援の強化 看護師としての基礎的能力の習得については、「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を活用して行く視点を持つことを強化・支援し、社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援することができた。経済的支援については、公的奨学金の活用について支援をすることができた。 国試対策として3年間の支援計画の下、各学年国試対策を行うことができた。専門性の追求や学び続ける力を支援するために教科外講座として、福祉住環境コーディネーター講習会を開設し、受講者 90 名、検定試験 83 名受験、42 名合格(51%合格率)であった。(全国合格率42%)</p> <p>6. 入学生・卒業生への支援 入学前支援として 4 回シリーズでプレスクールを実施した。卒業後支援として卒後5か月目と卒後1年目に里帰りレニングを実施した。</p> <p>7. 広報活動 日頃の学校生活等について学校ホームページをリニューアルして紹介し充実を図ることができた。学校説明会・学校祭・オープンキャンパスを計画通り開催することができた。また、中学校を訪問し、職業ガイダンスにより、看護師の魅力を伝え、高等学校訪問では職業ガイダンス、進学説明会を行い、質の高い入学生の確保に努め、対外的に学生生活を紹介することができた。</p> <p>(8)周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 中高生への健康教育、健康講座等、地域の子育て支援講座等へ講師派遣をし、また、学生のボランティア活動を支援し地域貢献に努めることができた。 沖縄県看護教育協議会との情報交換については校長役員会や再教育研修会、領域会議等を通して情報交換はできている。日本看護学校協議会については、学会への発表・参加を通し県外他校の情報収集に努めた。</p> <p>(9)後援会及び同窓会活動の支援 後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう事務的支援を行った。</p>	